

## 学生自主学習支援という新しい試み

国際関係学科 福岡 千珠

高等言語教育研究所では、2012年度の新しい試みとして学生が自主的に行っている語学に関する研究会・勉強会の支援を始めました。テキストの購入やメンバー集めのサポートをすることにより、学生が主体となって運営している語学勉強会の活動を促進することを目的としています。こうした新しい試み始めた理由としては、授業外で学生自らが語学学習に取り組む自主的な活動を促進していきたいという考えがありました。

この試みは、2012年前期の7月に「高等言語教育研究所は、語学の勉強会をサポートします！」と銘打ったポスターを貼りだし、支援対象となる勉強会・研究会を募集することから始まりました。8月2日の締め切りまでに、予想を上回る3つの勉強会・研究会から応募があり、検討した末、3つすべての会を支援の対象とすることにしました。後期に入り10月9日の昼休みに3つの会のメンバーを対象に説明会を開き、毎回勉強会ごとに記録を残すこと、学年末に『ことばの世界』で報告することなどのルールを了承してもらうとともに、それぞれの勉強会・研究会について報告してもらいました。3つの勉強会のメンバーは、その後も高等言語教育研究所主催のレシテーション大会にスタッフとして参加してくれました。またレシテーション大会では、オーディエンスに向けて、それぞれの勉強会の活動報告と新メンバー募集を行いました。

今年度の活動については以下にそれぞれの勉強会の代表者が報告してくれましたが、それぞれに得るものは大きかったようです。今後は、この勉強会支援をさらに発展させ、それぞれの勉強会の継続(これが最も難しいことかと思うのですが)をいかに支援していくか、また勉強会の場所の提供等具体的な支援の在り方について考えてゆきたいと思います。

### アラビア語研究会 活動報告

国際関係学科 木元 茜

アラビア語研究会は、現在7名と先生を加えた8名が週に一度集まり、活動をしている。この研究会は、「マイナー言語を学ぼう」という先生の発信に興味を持って集まった、国際関係学科1年生が立ち上げた。

基本的な活動としては、「ニューエクスプレス アラビア語」を順に追いながら基本的なフレーズや単語を皆で読み上げ、解説を読みながら各自で分析し、理解していく形をとっている。今後は応用的なフレーズが増えていく為、より詳しく学習ができるように辞書を購入し、自らが話せるフレーズやパターンを増やしていきたいと考えている。また、アラビア語文字を「書く」ことに慣れるために、新たな教材を導入し、話すことだけでなく、「書く」という要素を多く取り入れた学習を進めていきたいと考えている。

アラビア語という言語は日本にとってはマイナーな言語と捉えられているが、世界的にはアラビア語がとても大きな影響力を持った言語の一つである。その言語を学ぶことで、より自分たちの知らない世界、見たことのない世界を知る為の一步にしたい。また、言語だけでなく文化や社会についても触れ、異文化理解につなげていきたい。

フィンランド語学習会は2012年5月に始まったフィンランド語の自主学習会である。現在7名で週に一回集まってフィンランド語の学習を進めている。独学による学習なので大変なことも多いが、このような形の外国語学習から得られたことも多いので、それについて書きたいと思う。

フィンランド語の一番の特徴は名詞と動詞がすさまじい変化をするということである。動詞は(文法書にもよるが)4つグループに分けられ、名詞の格変化は15種類ある。他にも母音調和とか階程交代とか言う複雑そうな規則がある。学習会では、なぜこの形になっているかわからないこと、時にはその原型もわからず、悩むことすらたくさんあった。学習会ではインターネットで見つけてきたテキストを使って読み解いていく。そのテキストの日本語はないので文法書を使って自分で解説していくのだ。なぜ、わざわざ日本語のあるものを使わないかというと、そのほうが身になるからである。学習会の前までにテキストの文の文法的解説できるように文法書を漁り、皆に教える。不完全なこともあったり、間違った解釈を指摘されたりもすることもあるけど、そうしたことが勘を養うことにつながっているのではないかと思う。また、ある文法書には書いていないことが別の文法書には書いてあった、なんてこともあった。文法書によって異なることが多いことを知った。格の名前が異なる名称になっているぐらいならなんてことはないが、動詞の種類の違いが違ったり、複数形の作り方の手順が微妙に違っていたりと決して一義的な見方になることにならず、外国語学習の教材の使い方の勉強にもなった。

今後の展望について、今は一人がテキストを解説し、学習会のメンバーに教えてフィードバックをもらっているが、来年度は今のメンバーが新たに学びたいと学習会の扉を叩いてきた新入生に基礎文法を教え、自分たちはさらに上の中級文法を教えていくというのはどうだろうか、という提案もでている。学んだことを次に教えていくという学習会のシステムが出来上がってくればよりスムーズになるからいっそう好ましい。独学による学習を通して外国語を学ぶことは容易ではないけれど、得るものも大きい。そして独学だからこそ磨かれる知性があるということもこれからも共有していければよいかなと思っている。

### BCT 勉強会活動報告:ビジネス中国語検定5級合格に向かって 中国学科 阿部 貴子



私たち BCT 勉強会は中国政府の国家レベルの標準試験である「ビジネス中国語検定(商务汉语考试;略称 BCT)」各級に合格するために高等言語教育研究所のサポートを受け日々勉強しています。

メンバーは中国学科の3年生と4年生が中心となって現在17名おり、留学経験のあるメンバーが多い点が特色かと思えます。全メンバーがそろふことはなかなか難しく、5~7名で毎週水曜日と金曜日に本学図書館のグループ研究室にて活動しています。活動内容は水曜日に模擬試験を行い、金曜日はテキストを輪読しています。資料は高等言語教育研究所のサポートで購入して

いただいた『商务汉语考试模拟题集』张进凯 编著 外语教学与研究出版社 2007 や、『新丝路

『中級速成商务汉语(1)』李晓琪 主编 北京大学出版社 2009 などを用いています。

BCT 勉強会は高等言語教育研究所のサポート開始を機に発足したもので、まだビジネス中国語検定を受けたメンバーは少ないです。5 級を最高とする検定なのですが、一人が 4 級に二人が 3 級に合格しています。これからも勉強会での学習を重ね、より多くのメンバーが 5 級に合格できるよう努力していきたいと思います。

また私たちの目下の課題は、ビジネス中国語を勉強するという内容からか下級生のメンバーがいないことで、来年度以降も勉強会を存続させていくために今後は 1 年生 2 年生への BCT 勉強会の周知やメンバー募集の活動も行っていきたいと考えています。